

にいがた

新潟県老人福祉施設協議会広報誌

2015.12.24 NO.25

ろうしきょう NEWS

■2015年度新潟県老人福祉施設協議会活動報告

卷頭シリーズ・元気な笑顔が素敵！すまいる介護ウーマン



1

担当する特養のフロアで。4つあるユニットに50名の入所者。ユニットごとに写真展などを開催して、活気と楽しい雰囲気を作る。



2

お茶の時間に談笑。入所者にとっては孫のような川村さん、「帰る時に天気が悪いと、心配してくれるんです」。



■モチベーションを生んだ言葉

始めの頃は大敗続き。頼まれたことを忘れて叱られ、落ち込んで。何かあるたび

いへんだ、といへんだとて思つてました。そんな時、先輩に言われたのが「たいへんだと思わないで行こうよ。みんな普通にやつてるんだからあなたもきっとできる」。あと、一年目から担当したおばあちゃんが可愛がつてくれて、ご家族が来られるたびに「いつもよくしてくれると」と。昨年亡くなられた時は、大泣きました。

■今後の自分 今年、介護福祉士の資格も取ったので、もう

資格もとったので
できる限りこの仕事を
続けたい。

ご利用者様のそれまでの当たり前の
生活がここでも当たり前にできる
ように。

すまいるウーマン 川村友見子さん

○所属 特別養護老人ホーム すずらんの園
○経歴 1993年1月生まれ 三条市出身。
加茂暁星高校卒業後、現職。今年3月に
介護福祉士の資格を取得した。

○趣味 遠出。ライブ。たまに高校の時
やってたバスケかな。



3

施設では毎年テーマを決めて、
全員で巨大な貼り絵を制作する。
他にも書や写真、絵手紙など、施
設内はギャラリーのよう。



高齢者総合福祉施設 すずらんの園

○運営 社会福祉法人 人と縁の大地
○特別養護老人ホーム 50名
ショートステイ 12名
デイサービス 20名
ケアハウス 24名
グループホーム 18名
○新潟県見附市田井町1715-1
TEL0258-61-3520

たいへんだと思わないで行こう。

■就職の理由

高卒で就職は決めていたのですが、特に

希望もなし。たまたま見学に来た、こちらの施設の雰囲気がよくて家庭的なところが決めてでした。病院と違う建物の人もあつたかい。居心地よさそうと思いました(笑)。

■仕事のポイント 実際、仕事をしてみてびっくりしたのは、「大人でも大声出したり、怒ったりするんだ」。人それ

ぞれなんだということを学びました。皆さん、今までの生活があつて、それがその人にとっての当たり前の生活。一人ずつ向き合って、ご家族にも納得頂けるケアが大事。それとご家族には、施設に入ることに罪悪感があるんで知らせたりして、「ここに入れてよかった」と思つて頂ける工夫も大事です。年二回の一時帰宅もできるだけ支援しています。たいへんでも、本当に喜ばれますね。

第21回新潟県老人福祉施設研究大会特集

9月2日(水)～3日(木)

1日目
全体会



今年度は第2ブロック部会の担当する新潟市で「共に生きる、共に目指す!～高齢者福祉の担い手としてできること～」をテーマに開催しました。1日目の全体会に式典と記念講演が行われました。講演は解剖学者 養老孟司氏、日本介護支援専門員協会会長 鷺見よしみ氏のお二人で、講演の参加者からは奥深い内容で感銘を受けたと喜びの言葉を沢山いただきました。2日の分科会では本会初の試みとなる、21世紀委員による企画・実行した1分科会を含む全5分科会に分れ、職員による実践活動や研究活動を発表しました。更なる質の向上を高めるために共に学び合い、そして交流を深め、盛会のうちに終了となりました。

2日目

第1分科会 「社会福祉法人の経営」

～新たな戦略、加算を取るために～

大きなイベントを終えて佐渡島でホッと一息しているところです。

参加会員施設の皆さま方をはじめ、講師の皆さま、大会運営関係者の皆さま方のお蔭で大盛況のうちに終了することができました。大変感謝申し上げます。

さて私達第1分科会では、社会福祉法人の経営について二人の講師からご講演頂きました。次の介護報酬改定を前に、今何をしなければならないのか? 大変興味のある内容であったと思いますが、会員施設の皆さま方にはお役に立てただろうかと心配しております。

私個人としましては、より多くの皆さま方と知り合えたことが大変良かったと思っております。

これからも新潟県老施協一丸となってまいりますのでよろしくお願いします。

(運営責任者 井野端 司)



株式会社ウエルビー代表取締役 青木正人 氏
公益社団法人 全国老人福祉施設協議会
事務局長 天野尊明 氏

第2分科会 「デイサービスの経営」

～これからの安定したデイサービス事業を運営するためには～

第2分科会の運営副責任者を努めさせていただきました。

はじめに、全国老人福祉施設協議会 副会長 瀬戸雅嗣氏から「介護保険法改正・報酬改定と今後のデイサービス運営戦略」についてご講演いただきました。介護報酬のマイナス改定を受ける中、しっかりと加算を取得し専門性を高め、特徴ある事業運営をすること。利用者の体調管理に努め稼働率向上を目指すことなど運営戦略について深く学ばせていただきました。

つづいて、5事業所からは事例発表が行われ、厳しい事業環境の中でも事業安定化に向けて取り組まれている様々な工夫や努力を会場全体で共有できたと思います。

1日目の講演を含め、本当に勉強になった2日間でした。

(運営副責任者 長岡義之)



公益社団法人 全国老人福祉施設協議会
副会長 瀬戸雅嗣 氏

大会スナップ



笑顔で皆様をお迎えします！



第3分科会 「介護と医療の連携」

～生活介護における多面的なケアをトータルに提供する連携を築く～

新潟医療福祉大学教授 横山豊治氏を講師にお迎えして、講義は、全国に30万人が生活する人工透析患者が減少傾向し高齢化している状況で、亀田郷芦沼会の特養「風の笛」での実践例や、富山市「ケアタウン構想」「希望の郷」を紹介し、これからは「病・福連携」による包括的ケアの重要性を認識し相互の専門性を尊重し、価値を共有し、重なり合う部分を理解しあい、必要な「並走区間」を大事にすることがよくわかりました。130名が参加した分科会では、施設からの事例発表は、7事例で、食事・栄養ケア、口腔ケアの実践例が5事例。認知症ケアが1事例、デイサービスでの「連携カード」によるきめ細かなサービス提供事例が紹介され、重度化傾向の中で、歯科医・歯科衛生士等の医療職と連携して、高い意欲と専門性を持って取り組まれていることが伝わってきました。

(運営責任者 枝村英一)



新潟医療福祉大学 教授 横山豊治 氏

第5分科会 「人財育成の基本的視点」

～共に成長し合う職場になる為に～

第5分科会は21世紀委員が企画運営を担当させていただきました。上記テーマで、我々21世紀委員世代が直面する2025年問題に向けて介護職員の人材不足という課題に向き合すべく、身近なネットワーク構築も目的に県内の身近なところで、これから関わっていくであろう2名の講師と21世紀委員長の進行で行われました。二部構成による前半は講師の新保由己子氏、井上基之氏、21世紀委員長 遠藤真一とフロア参加者にも投げかけながらフリートーク。新潟県社会福祉協議会での人材確保のしくみや、定着のための事業紹介もしていただきました。後半は井上氏の進行のもとにフロア参加者と一緒に介護人材に対する課題を考えていきました。ファシリテーションの視点から、介護職についての人や組織のあり方、リーダーシップや自身のミッションの明確化、そして会議の活用と重要性を学び、フロア参加者も含め、介護現場の担い手一人ひとりが「人財」なのだという温かく力強いメッセージも頂きました。

(運営副責任者 今井正人)



参加者にも感想をいただきました

右:新潟NPO協会 事務局長 井上基之 氏

左:社会福祉法人新潟県社会福祉協議会 課長補佐 新保由己子 氏

第4分科会 「認知症ケア」

第4分科会では、認知症の方が施設・在宅においていつまでもいきいきとした生活を送ることができるよう、現場の職員は尊厳の保持、個性を大切にしたケア、環境の工夫などに試行錯誤をしながら良質なケアを追及しています。

そのようなことから、認知症の方の力を引き出すワンランク上の対応や新しいケアについて考える機会とし、午前は静岡英和学院大学人間社会学部コミュニティ福祉学科 三平 隆氏をお招きしご講義をいただきました。

午後は、日ごろ取り組んでいる独自のケア内容や先進的な実践を行っている7事業所より事例発表があり最後に三平氏より講評をいただき、参加された169名の方々にとっては明日からの業務の参考になる有意義な分科会になりました。

(運営責任者 中島吉治)



静岡英和学院大学 教授 見平 隆 氏



新潟県老人福祉施設研究大会を終えて

平成27年9月2日、3日の2日間に渡り、第21回新潟県老人福祉施設研究大会が新潟市のANAクラウンプラザホテル新潟で開催されました。例年よりも早い開催で、参加への影響が心配されましたが、約650名からご参加いただきました。大会開催にあたり、各関係機関をはじめ実行委員、事務局及び関係者の皆様から多大なご理解、ご協力を賜りましたことを厚くお礼申し上げます。

大会初日は、永年勤続表彰があり、長年、福祉に携わってきた方々に敬意を表すると共に、私自身も一層の奮起を心に誓ったところです。

また記念講演では養老孟司先生から、「今、私たちは何をすべきか」というテーマでお話いただき「若い人にチャンスを与えないと伸びない」と話されていたことが印象的でした。他にも故郷の高校生の話から将来の展望に触れられ、今後のパワーを頂戴した次第です。鷺見よしみ先生からは、地域包括システムのお話から“関わり合い”的な大きさとパートナーシップ構築の重要性を学ばせて頂きました。

お二方の講演は、今回のテーマの『共に生きる、共に目指す！』、サブタイトルとして『高齢者福祉の担い手としてできること』と通じる部分が多く、一般参加の方々も熱心に聞き入っておられました。

大会2日目は5つの分科会に分かれ、「経営」や「介護と医療の連携」、今回21世紀委員による、「人財育成の基本的視点」として、将来を見据えた分科会も行いました。発表数が多く調整が必要だった分科会もあり、意識の高さが垣間見られ、大いに刺激になったと思います。講師も現場でご活躍の方々をはじめ、全国老人福祉施設協議会の瀬戸副会長、天野事務局長をお招きし、有意義なお話を聞け、ディスカッションができました。これも新潟の福祉熱と人の繋がりの賜物を感じております。

最後に、実行委員長として力不足で至らぬ点も多々ございましたが、大会に携わっていただいた皆様のお蔭で、大会が大成功の内に終えることができました。

改めてお礼申し上げ、結びとさせていただきます。本当にありがとうございました。



実行委員長
特別養護老人ホーム虹の里園長 笠巻淳以智

21世紀委員会とは

ご挨拶

今年度より県老施協21世紀委員会委員長に就任いたしました遠藤真一と申します。

前年度まで委員でもなく、21世紀委員会とはなんぞや？という状態でいきなり委員長になってしましました。ですが、同じようにこの委員会は何？と思われている方々も多いと思います。今回皆様に21世紀委員会の意義をご理解いただき、主体的に参画して切磋琢磨していく中で、難しい局面を迎えている高齢者福祉の進むべき方向性を見出し、共に実践を重ねていければと思います。利用者のために今何ができるのか、これから何をしていくのか、一緒に考えていきましょう！



21世紀委員会 委員長
デイサービスセンター福住
センター長
遠藤真一

21世紀委員会は県老施協を構成する会員施設に所属する若手経営者、経営管理担当者及び介護チーフ等が中心となり、委員の相互の研鑽及び会員施設職員の資質向上を図ると共に、現代社会が直面する諸課題や介護現場の将来像等を、地域の特性を考慮した立場で委員の主体的な問題意識のに基づき模索、検討し、21世紀型の福祉サービスの構築を提言することを目的としています。主な事業内容は、各ブロック部会の運営委員としての業務を行うほか、総務委員会、研修委員会に属し、研修企画や広報活動、研究大会の1分科会の運営を担当します。委員は、原則して49歳以下の者で構成しており、新潟県内の施設が共にレベルアップし、サービスの質の向上と共に安定した経営基盤が確立できるよう施設・事業者間のネットワークを確立していくための情報交換や「介護の魅力と感動」を県民にPRすべく広報活動を行っていきます。
(副委員長 山田宥人)

平成27年度 関東ブロックカントリーミーティングin千葉

14年に渡って現場の声を集積し、課題に向き合ってきた「21世紀委員会・カントリーミーティング」は、我が国の介護・福祉の次世代を担うリーダーが集う発進の舞台です。全国8ブロックに分かれ、新潟が所属する関東ブロックは本年度全国で最初に千葉県で開催されました。「介護が進む、日本を変える！～2025社会保障大改革は、現場の力で～」と題して平成27年9月24日(木)～25日(金)京成ホテルミラマーレで行なわれました。尚、来年は新潟で開催されます。



全大会で聴講する全国21世紀委員長 木村哲之氏(右)と全国理事 園田修光氏(左)



基調報告・課題提起、全国老施協 天野事務局長より



千葉県高齢者協会会長 田邊信行氏



分科会風景

各ブロック部会の活動紹介

第2ブロック部会

老人福祉業界を取り巻く状況に一層の厳しさを感じるこの頃ですが、この逆境を業界のレベルアップへの好機と捉え、施設運営・人材確保・職員の資質向上等の諸課題の解決に向けた企画の立案・開催等を通じ、委員それぞれが次の世代を担うべく自己研鑽を図っています。（担当 多田 浩）

副委員長・今井正人(在宅介護支援センターあしぬま荘)
菅原正克(養護老人ホーム松鶴荘)
小林真澄(特別養護老人ホーム虹の里)
多田 浩(デイサービスセンターはまゆう)
小鍛治就也(ケアハウスサンライフ中野山)
中村久典(特別養護老人ホームかんばらの里)



第5ブロック部会

11月25日、21世紀委員が計画、運営した研修会を開催しました。テーマを「成年後見制度について～施設と後見人の関わり方」とし、管理者と相談系の職員が合同で学ぶ機会としました。また、併せて福祉の要となる施設の長と相談系職員とのネットワークづくりをもう一つの目的としたところです。幸い当日は50名を越える会員より参加いただき、無事に終了することができました。今後の第5ブロックの運営の一助となれば幸いです。
(担当 金子美朗)



第4ブロック部会

10月7日に21世紀委員主催で初めて研修会を開催しました。企画や準備はわからぬことだらけで『先人は偉大だあ』と痛感しました。私たちも次世代を担う人材となれるように奮闘中です！応援よろしくお願いします！
(担当 佐藤房子)



第1ブロック部会

21世紀委員会が発足して3年。試行錯誤しながら取り組んできました。
研修会では会員の皆様に喜んで頂けるよう企画・運営に頑張りたいと思います。
大勢の参加をお待ちしております。
(担当 佐藤秀子)

佐藤秀子(特別養護老人ホームいわくすの里)
島田裕介(特別養護老人ホームはぐろの里)
小林きよ美(特別養護老人ホーム菅名の里)
菅原素氣(特別養護老人ホーム豊浦愛宕の園)
和田弘寿(五泉中央デイサービスセンター)



第3ブロック部会

主に、21世紀委員は事例発表会、施設見学会に携わっています。

10月に行われた事例発表会は、各事業所の取り組みを150名の参加者が真剣に聴いており、大盛況でした。また、その中で「いってみたいで賞」を受賞した事業所に実際に見学に行き、さらに深いところまで見たり聞いたりすることができます。すでに3事業所を見学し、12月には2事業所を見学しました。（担当 中澤葉子）

委員長・遠藤真一(デイサービスセンター福住)
内山真吾(デイサービスセンター岡南)
石坂勝史(特別養護老人ホームフローラ)
中澤葉子(特別養護老人ホームさかえの里)
佐久間敏江(特別養護老人ホーム太陽の園)
片山達也(特別養護老人ホーム分水の里)
池田兼一(居宅ふれあいステーション白山町)



自慢は職員!

特別養護老人ホーム いこいの里 施設長

近藤 昭子さん

●施設長リレーコラム●

いこいの里は今年10月に20周年を迎えました。私自身の勤務もまもなく20年になるところです。窓から望む四季の移り変わりの美しい山々に見守られ、たくさんの方に支えられた20年に感謝しています。開所当初からずっとボランティアを続けてくださっている方も大勢いらっしゃり、その姿に励まされます。

さて、いこいの里の一番の自慢は活気ある職員です。10代から60代まで年代も幅広く、性格も多様な職員が、それぞれの部署で、思いやりと責任感を持ち、自分の得意なことを活かしながら、それは目立つことも、一見目立たないこともありますが、ご利用者に充実した毎日を送っていただけるよう日々奮闘しています。もちろん、すべてが上手くいっているわけではなく、介護のプロとして新しい知識や技術をより身につけること、磨くことに課題もまだたくさんあります。人間関係の悩みも当然あります。しかし、課題はよりよいケアへつながる伸びしろであり、様



連載
VOL.25



々に悩みながらもアイデアを出し、行動していること、あたたかいハートでサポートしあう姿にたびたび感動しています。新人職員が、きびしさ、喜びなどたくさんの経験を積み成長していくことがまぶしく、少々身体も頭も凝り固まって来た私は、うらやましく感じます。

このコラムが掲載される頃は、年に一度の全職員との面接の真っ最中です。「なるほど」と思える話を聞けるチャンスですので、体調を整え真摯に向き合います。また、人手不足による疲労が蓄積し過ぎないよう解決しなければなりません。これは難儀な課題ですが、いきいきと働き続けることができる職場であり、ご利用者がのびのびと自分らしく暮らせるよう、希望を持ち、もがいていきます。

いこいの里に関わるみなさんの笑いじわがたくさん増えますように。



20周年記念ふれあい祭りで重要無形文化財「綾子舞」の公演を行いました。

事業所所在地 新潟県柏崎市大字佐水3140

運営事業者 社会福祉法人 汐山会

事業所の種類 特別養護老人ホーム

定 員 80名

連絡先等

TEL 0257-29-3800

FAX 0257-29-3350

編集後記

今号より21世紀委員会の総務委員にご協力いただいて、紙面を作成しております。皆様ありがとうございました。「にいがたろうしきょうNEWS」では紙面に登場したい人、写真や文章を掲載したい人等を募集しております。簡単な内容を本会にメールでお寄せください。とくにイラストを描いてくださる方は大歓迎です！ご連絡をお待ちしております♪



発行所 一般社団法人 新潟県老人福祉施設協議会

新潟県新潟市中央区上所2丁目2-2 新潟ユニゾンプラザ2F

電話 025-281-5534 発行人 市井 栄吉

にいがたろうしきょう NEWS 平成27年12月24日発行